



16. スポーツイベントの実施

多摩川では毎年、多摩川をフィールドとしたスポーツイベントを開催しています。健康増進とともに、多摩川の自然を身近に感じ、多摩川と親しく関わるきっかけとなっています。

◆多摩川カヌー教室

開催日：2009(平成21)年8月8日(土) 参加者数：125人
2010(平成22)年8月21日(土) 参加者数：127人

場 所：等々力緑地先の多摩川・河川敷【中原区】

内 容：カヌー体験

(カヌー基礎知識講習・カヌー操作方法等の水上講習) 安全講習(救急法講習)



初心者でも安全に楽しく体験



安全講習では講師も参加者も真剣



カヌーも形状は様々です

◆川崎国際多摩川マラソン in 川崎

開催日：2009(平成21)年11月15日(日)

エントリー数：6,875人

2010(平成22)年12月5日(日)

エントリー数：6,281人

会 場：川崎市等々力陸上競技場【中原区】

コース：川崎市等々力陸上競技場(スタート、フィニッシュ)

多摩沿線道路および多摩川河川敷マラソンコース

種 目：ハーフマラソン、10km、3km、

親子ペアランニング



こんなに大勢の方々
参加しました

◆多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎

開催日：2010(平成22)年3月21日(日)

エントリー数：1,277組

会 場：川崎市古市場陸上競技場【幸区】

コース：多摩川河川敷マラソンコース

種 目：ショートの部(中学生以上)

キッズ・ファミリーの部(小学生以上)

ロングの部(高校生以上)



子どもから大人まで皆で
タスキを繋ぎました

17. かわさき多摩川博

シンポジウムやいかだ下りなどのイベントを通して、多摩川の魅力・情報を発信する事業を「多摩川博」と総称しています。

2009(平成21)年度は「景観」をテーマに、2010(平成22)年度は「歴史・文化」をテーマに、NPO法人多摩川エコミュージアムと川崎市が協働で行いました。

◆多摩川桜のコンサート

開催日：2009(平成21)年4月4日(土)

参加者数：約500人(観覧者)

2010(平成22)年4月3日(土)

参加者数：約700人(観覧者)

場 所：ニヶ領せせらぎ館前広場【多摩区】

内 容：桜の開花時期に合わせて、ニヶ領せせらぎ館前広場でコンサートを行いました。



満開の桜をバックに熱唱
2009(平成21)年度開催

◆多摩川源流まつり

開催日：2009(平成21)年5月4日(月・祝)

2010(平成22)年5月4日(火・祝)

場 所：山梨県小菅村(多摩川の源流)

内 容：多摩川の源流のひとつである山梨県小菅村で開催される源流まつりへ参加し、減流域との交流を深めました。



川崎ブースでは「多摩鍋」を出店
2009(平成21)年度開催

◆河口干潟観察会

開催日：2009(平成21)年5月10日(日)

参加者数：150人

2010(平成22)年5月16日(日)

参加者数：104人

場 所：大師河原干潟館前河川敷【川崎市】

内 容：子どもを対象に、生き物探しなどの干潟体験イベントを行いました。



2010(平成22)年度開催



干潟にいる貴重な生きものの観察。子どもたちは泥まみれになりながらも真剣
2009(平成21)年度開催



◆夏祭り丹波

開催日：2009(平成21)年7月26日(日)
2010(平成22)年7月25日(日)

※市民同士の交流のみ

場 所：山梨県丹波山村(多摩川の源流)
内 容：多摩川の源流、山梨県丹波山村のお祭りに参加し、源流域との交流を深めました。



源流から河口までが繋がります

◆生田緑地サマーミュージアム

開催日：2009(平成21)年8月1日(土)～2日(日)
参加者数：約800人(観覧者)
2010(平成22)年7月31日(土)～8月1日(日)
参加者数：約700人(観覧者)

場 所：生田緑地【多摩区】
内 容：市内随一の緑の宝庫である生田緑地で行われる催しに参加し、市民に緑や水、多摩川的环境について考えてもらうイベントを行いました。



生田緑地と多摩川のごみを使ったアート
2009(平成21)年度開催



こんなに大きな万華鏡が登場
2010(平成22)年度開催

◆リレートークショー

開催日：2009(平成21)年8月16日(日)
参加者数：71人

場 所：ニヶ領せせらぎ館【多摩区】
内 容：2009(平成21)年、ニヶ領せせらぎ館開館10周年を記念し、10年間を振り返り、そして未来へ向かってパネリストと参加者の皆さんとで意見交換を実施しました。



10年間の思い出が止みません

◆エコ★カップいかだ下り

開催日：2009(平成21)年9月6日(日)
参加者数：26組106人
2010(平成22)年9月5日(日)
参加者数：33組148人

場 所：ニヶ領せせらぎ館下～多摩高校裏の多摩川【多摩区】
内 容：公募参加による廃材等のエコな材料で作った、個性豊かな手作りいかだによる、多摩川下りのイベントを行いました。



エコないかだでGO!

2010(平成22)年度開催

◆鮎の卵観察会

開催日：2009(平成21)年10月31日(土)
参加者数：54人

場 所：ニヶ領せせらぎ館【多摩区】
内 容：春に多摩川を遡上した鮎たちが産卵の季節を迎えたことから、神奈川県水産技術センター内水面試験場にご協力いただき観察会を実施しました。



本物の鮎の卵を発見する貴重な体験

◆みずウオーク

開催日：2009(平成21)年11月14日(土)

参加者数：約450人

2010(平成22)年10月23日(土)

参加者数：約700人

場 所：多摩川沿いのコース(二ヶ領せせらぎ館発着)【多摩区】

内 容：「水辺の自然を楽しみながら健康づくり」をキャッチフレーズとするウオーキング大会「みずウオーク」を読売新聞社と実施しました。



記念すべき第1回川崎大会は生憎の天気でした 第2回(2010(平成22)年度)は好天!

◆環境楽習

開催日：随時

場 所：二ヶ領せせらぎ館【多摩区】

延参加者数：2009(平成21)年度3,004人、2010(平成21)年度3,257人

大師河原水防センター(干潟館)【川崎区】

延参加者数：2009(平成21)年度1,042人、2010(平成21)年度1,037人

※2010(平成21)年度の延参加者数は、ともに2011(平成23)年1月末現在の人数

内 容：市内多摩川の環境学習の拠点施設である二ヶ領せせらぎ館、大師河原水防センター(大師河原干潟館)を中心に、年間を通じて市内外の小中学生が多摩川の自然や歴史などについて学びました。

◆環境楽習発表会

開催日：2009(平成21)年1月30日(土)

参加者数：132人

2010(平成22)年1月23日(日)

参加者数：120人

場 所：二ヶ領せせらぎ館【多摩区】

内 容：1年間多摩川で行った環境学習で体験した内容を小中学校の先生、生徒が発表しました。



趣向を凝らした発表が沢山
2010(平成22)年度開催

◆かわさき多摩川博シンポジウム

開催日：2009(平成21)年2月20日(土)

参加者数：266人

2010(平成22)年12月11日(土)

参加者数：約150人

場 所：高津市民館【高津区】2009(平成21)年度

エポックなかはら【中原区】2010(平成22)年度

内 容：多摩川の歴史に関する総合的なシンポジウム。基調講演や多摩川博の事業報告、フォトコンテストの表彰式などを実施しました。



多摩川を未来へつなぐ思いが集結
2010(平成22)年度開催



18. アユ生態調査

多摩川を遡上するアユについて理解を深めてもらうことで多摩川の自然環境にも興味をもってもらうと、2007(平成19)年度より、市民参加型のイベント等を行っています。

2009(平成21)年度は、アユの生態を分かりやすく解説した下敷きを作成しました。

アユの一生を見てみよう!!

夏のアユ
アユの香り
コケを主食とする夏のアユは、スイカのような香りがするので香魚とも呼ばれます。
石に付いているコケを食べて大きくなります(7~8月)

秋のアユ
アユは卵を産むために、このあたりに集まることができます。この時期のアユは、だんだん黒ずんだ色になり、銀アユと呼ばれています。(10~12月)

春のアユ
川崎市では、春から初夏にかけて、川を上っていくアユが見られるよ。
アユの寿命はたった1年! だから年魚とも呼ばれているよ。

冬のアユ
かわさきの海もアユにとっては、大事な成育の場所です。

★約束★
アユの観察に川へ行く時は川の流れに注意しよう。必ず大人と一緒にいこうね!

多摩川の変化
約40年前... 暮らしが豊かになり、川の周りにも多くの人が住むようになりました。川はどんどん汚れていきました。中性洗剤で汚れた多摩川で釣りをする人々。
現在~川を上るアユを見に行こう!~ 下水の整備が進み、多摩川はどんどんきれいになってきました。川を大切にしようとする活動が盛んになり、今では一度汚れてしまったアユもたくさん戻ってきました!
「川を上るアユの様子」写真提供: 眞田海さん

かわさきアユマップⅡ

生まれて何日目なのかな?

MEMO ~頭の中に耳石あり!~
アユの頭の中には、耳石という骨があります。アユが生まれてから何日経ったかという情報は、耳石によって知ることが出来ます。アユが大きくなるにつれ、木の年輪のように、耳石の外側にとても細かい線が1周ずつ増えていきます。この線は毎日一本ずつ増えていくので、日齢と呼ばれています。

アユの食事は何だろう?

MEMO ~大人と子どもで食事が変わるよ~
子どもの頃のアユは河口や海で生活し、海中のプランクトンという小さな生き物を食べて大きくなります。
春になり川を上る頃になると、川底の石についたコケを主食にして成長していきます。

魚+占=鮎!

MEMO ~どうして「アユ」っていう名前?~
「魚」へんに「古」と書いて鮎という漢字になります。その理由は昔々の古いに関係していた魚だったからなど...調べてみると面白いよ!

川で生活している時の形(8月ごろ)

耳石はこのあたりにあるよ。
だ円形の黄色い模様があるよ。
背びれ
尻びれ
尾びれ
胸びれ
腹びれ
実際の大きさは20センチメートルくらい

アユの成長の様子

卵から生まれた時の形 (11月ごろ) 0.5センチメートルくらい
海で生活している時の形 (2月ごろ) 3センチメートルくらい

オスとメスの違いって?

MEMO ~尻びれに注目してみよう!~
オスの尻びれは、魚の体に対して直角に生えています。メスの尻びれは、魚の体に対して弱く丸みをおびた形で生えています。からだの成長にあわせて尻びれも発達するので、はっきりオス・メスの見分けが付くのは8月の終わり頃になります。

19. 「多摩川にいこう！」

2007(平成19)年3月に策定した「川崎市多摩川プラン」では、「川崎っ子プロジェクト」として、学校教育における多摩川の活用や環境学習の推進を位置付けています。多摩川を題材とした環境教育は、既に市内の小・中学校で展開されてきているものの、多くの学校は未実施です。そこで、2009(平成21)年度、市内の小学校全てに、「きっかけ作り」を行うことを目的とした環境学習資料を作成、配布し、アンケートを実施しました。

た ま がわ 多摩川にいこう! **水辺の鳥たち編** **2009年度 冬**

多摩川の水辺は冬でも鳥たちがたくさん!
多摩川では、たくさんの鳥が見られるよ。鳥たちの自然な姿を見てみよう!ただし、鳥を観察するときは、びっくりさせたり、生きている環境をこわさないように気をつけて。捨てられた釣り糸、ルアー、ゴミなどがあると鳥たちが怪我をする事があるから、ゴミなどはかならず持ち帰ろう。

おしゃべりオスで見分けよう! カモのなかま
シベリアなど寒い北の国から、冬にやってきます。メスよりもオスの方が派手な模様で飾っているよ。夫婦や群れて仲良くえさを探して川を泳いでいるよ。

オナガガモ オスは尾が長く、頭の後ろに白い線
ヒドリガモ オスは頭の上がクリーム色
カルガモ オスも地味、先が黄色のくちばし
コガモ ハトより少し大きい(他のカモより小さい)オスは目の周りから首が緑

カワセミ 空中から水の中にダイビングして魚をとる青とオレンジの体
ヒメアマツバメ 小さく、小太りしたツバメの仲間1年中見られる
イカルチドリ 丸い頭に大きな目頭から目や唇に黒いすじがある

アオサギ 目の後ろから青黒い冠羽
ダイサギ 細長いスマートな体
ユリカモメ 翼の先が黒く、美しいカモメ
バン 黒い羽、黄色い足、赤いくちばし河原に巣をつくる

シギのなかま 長い足で干潟をあるく
アオアシシギ 少し反ったくちばし青緑色の足
セイタカシギ 黒白の体ピンクの足片足で立っている時、もう片足はお腹の下

行く場所・季節によって、長袖や帽子、長靴などを忘れずに!
双眼鏡を持っていけば、遠くの鳥も観察できるよ。

行ってみよう! 大師河原干潟館
●千210-0811 川崎市川崎区大師河原1-1-15
大師河原1丁目公園横(大師河原防災ステーション内)
●京急大師線 東門前駅から徒歩7分
●開館 水・土・日・祝日の10~15時
●電話: 044-287-7882
●URL: <http://www.city.kawasaki.jp/30/tamasu/home/tanagawa/siriboucenter.html>
観察会やエコクラフトなどのイベントも開催しています。
干潟の素晴らしい自然を体験してみませんか?

多摩川を学ぼう 川崎区 東門前小学校
学年に応じて、多摩川でいろいろな自然の学習を行っています。
毎年2月、5年生が総合学習で野鳥の観察を行っています。とても難しいですが、野鳥が魚を捕まえて、食べている所なども見ることが出来ます。
多摩川にいこう!への感想や質問は…… 発行元・連絡先 川崎市環境局多摩川環境推進課 電話044-296-2268 FAX044-296-1923 E-mail:131kawas@73.kawasaki.jp

多摩川環境学習資料(生徒向けB3版ポスター)



川崎市多摩川プラン 進捗状況のまとめ

◆川崎市多摩川プランの基本理念と7つの目標

「川とふるさとの再生、市民協働による多摩川ライフの創造」

多摩川プランでは、「川崎の母なる川・多摩川」の魅力を流域を含めた一人ひとりの市民が共有し、豊かな自然環境と多様な生命が共存しうる新しいライフスタイルを創造することを目指します。

I. ふるさとの川・多摩川を育む

II. 多摩川の風景づくり

III. 市民に身近な多摩川へ

IV. 運動施設の利便性向上

V. 子どもの生きる力を育む
場の創造

VI. 生命の賑わい豊かな多摩川へ

VII. 参加と協働による川育て

◆多摩川プランの評価の目的

川崎市では平成19年3月に川崎市多摩川プランを策定しました。平成22年度末で策定から4年が経過することから、プランの進捗状況について評価を行い、今後のプランの推進に活かしていきます。

多摩川プランの7つの基本目標には、55の推進施策があり、それぞれの推進施策に対して進捗状況の評価を行いました。

事業完了	よく進んでいる	進んでいる (継続できているを含む)	あまり進んでいない	全く進んでいない
S	AA	A	B	C

◆総合評価

S:1(2%) AA:10(18%) A:38(69%) B:6(11%) C:0(0%) 計55(100%)

55の推進施策を個別に見ていくと、市民協働の事業（青枠）については、川崎区において新たに大師河原水防センターが開館し、多摩区の二ヶ領せせらぎ館と併せて環境学習の拠点施設の充実が図られたことや、川崎市内3校目の水辺の楽校として「だいし水辺の楽校」が開校したこと、またシンポジウムやいかだ下りなど、多摩川に親しんでもらうための新たなイベントも数多く開催されているなど、取組が良好に進んでいる。その他、環境学習や調査などプラン策定以前から行われているものは、継続して実施されている。

またサイン計画の策定やトイレの充実（簡易水洗トイレの整備）、施設の再整備など整備系（緑枠）の事業についても、プランの策定以後、「多摩川」という視点からアクセス改善や施設の利便性向上に良好に取り組んでいる。

一方、企業との連携という点では、企業の清掃活動など個別の例はあるが、企業と多摩川施策とが連携できるような仕組みづくりまでは出来ていない（赤枠）。また、河川空間の新たな利用促進については自治体の事例研究を行ったものの、具体的な取組に至っていない（黄枠）。

全体の進捗状況として、「C」（全く進んでいない）という評価はなく、「S」（事業完了）、「AA」（よく進んでいる）、「A」（進んでいる、継続できている）、の評価が全体の9割近くを占めており、概ね順調といえる。今後、多摩川プランの目的を達成するためには「B」（あまり進んでいない）の評価をなくすことが必要であることから、今後多摩川プランの目標年次である平成27年度にむけて、リーディングプロジェクトを見直すことにより、推進施策全体を推進し、7つの基本目標を早期に実現していく。

◆ 7つの基本目標における55の推進施策の評価結果

※推進施策の「●」は再掲を表します。

I. ふるさとの川・多摩川を育む	II. 多摩川の風景づくり	III. 市民に身近な多摩川へ	IV. 運動施設の利便性向上
<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的・文化的資源の体系的収集・保存 A ○水文化の創造と伝承 A ○歴史をテーマとした学習会等の開催 A ○「ふるさと資産・遺産」の活用 A ○ニヶ領用水を活かしたまちづくりの推進 A 	<ul style="list-style-type: none"> ○花のある川づくりの推進 A ○多摩川のビューポイントの整理・活用 B ○河原風景の保全・桜並木などの復活 A ○多摩川景観形成ガイドラインの策定 S ○川の修景 A 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的なサイン計画の推進 AA ○川への案内・川からの案内の整備 A ○バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進 A ○アクセスの向上 A ○トイレ環境の改善 AA ○駐車施設の充実 A ○休息施設・緑陰樹の設置 A ○「川のひろば」・「川の一里塚」の整備 B ○「利用ルール」づくりとその展開 B ○バーベキュー問題の解決 AA ○船着場の活用 A ○河川空間の新たな利用促進 B ○未占有地の有効活用 A ○ホームレスの自立支援策の推進 A ○治水の強化・防災性の向上 A 	<ul style="list-style-type: none"> ○利用システム改善に向けた検討 B ○緑地施設の管理水準の向上 AA ○サイクリングコースの充実 A ○施設の再配置・再整備 AA ○マラソンコースの再整備 AA
V. 子どもの生きる力を育む場の創造	VI. 生命の賑わい豊かな多摩川へ	VII. 参加と協働による川育て	
<ul style="list-style-type: none"> ○環境学習・環境教育の推進 A ○水辺の楽校の展開 AA ○「河原の復権」に向けた取り組み AA ○水質の向上・水量の確保 A 	<ul style="list-style-type: none"> ○流域における緑地保全 A ○水系・緑地のネットワーク化 A ○流域における地下水・湧水保全など水循環の回復 A ●水質の向上・水量の確保(再掲) A ○河口域における観察ポイントの創出 A ○水質・生物・底質の調査 A ○多自然川づくりの推進 A ○環境に配慮した施設整備 A ○生物に配慮した堰の管理 A ○市民参加による生物調査 A ○生き物たちの生命賑わい豊かな川へ(生物多様性の保全) A 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンサートの開催や水辺の文化活動の推進 A ●総合的なサイン計画の推進(再掲) AA ●川への案内・川からの案内の整備(再掲) A ●バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進(再掲) A ●アクセスの向上(再掲) A ○多摩川エコミュージアムプランの推進 A ○地域連携イベントの開催 A ○多様な主体を支えるシステムづくり A ○協働型事業の実施 A ○仮称「多摩川プラン推進会議」の設立 A ○企業と育む環境作り B ○総合的な情報共有・受発信 A ○拠点施設の充実 AA ○シンポジウム等の協働開催 AA ○流域懇親会など流域間連携・交流の展開・促進 A 	



リーディングプロジェクト 推進内容の見直し

◆リーディングプロジェクト見直しの考え方

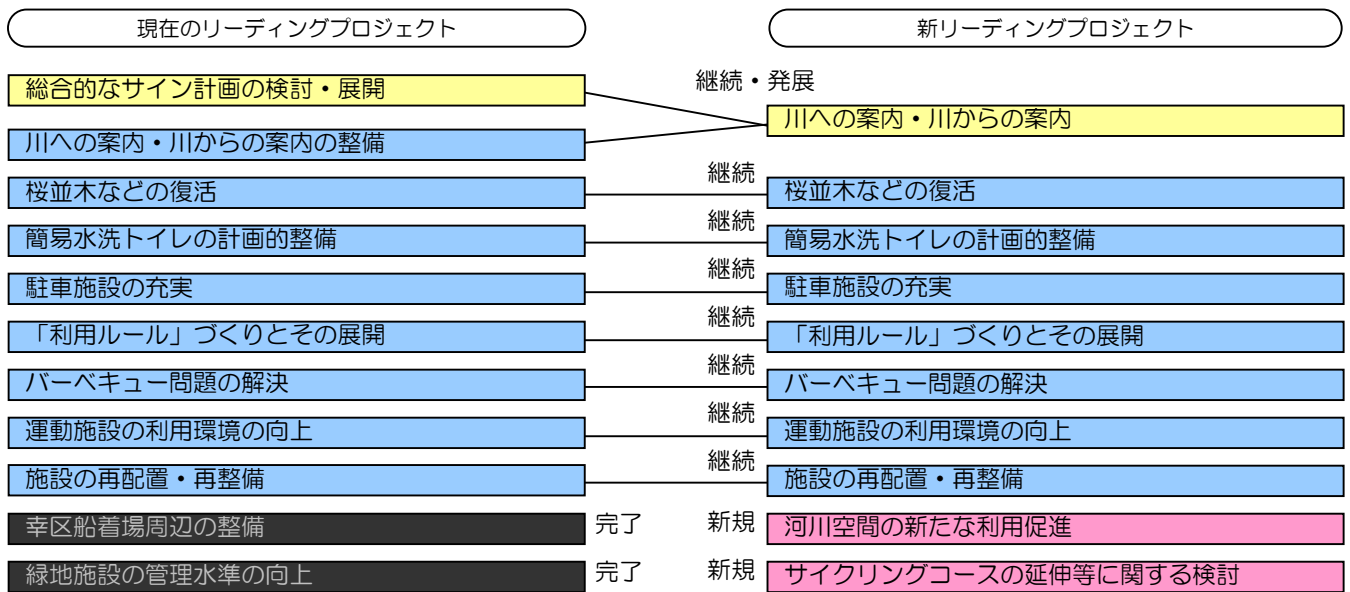
多摩川プランでは、55の推進施策を先導的に展開するため3つのリーディングプロジェクトに取り組むとしており、各プロジェクトには推進施策に位置づけられている事業の中から、優先的かつ重点的に実施すべき推進内容が位置づけられています。

平成22年度末をもってプラン策定から4年が経過し、多摩川プランの中間年を迎えることから、今年度をひとつの区切りとしてこれまでのリーディングプロジェクトの取組を評価し、目標年次である平成27年度に向けて推進内容を見直し、新たなリーディングプロジェクトとして位置づけます。

◆リーディングプロジェクト見直しの方向性

- 【完了】・・・平成22年度末までに事業が完了したため、リーディングプロジェクトから位置づけを外す事業
- 【発展】・・・事業がより進んだ段階に移行したため、他の施策と統合した上で引き続きリーディングプロジェクトとして位置づける事業
- 【新規】・・・社会環境等の変化に合わせ、新たにリーディングプロジェクトとして位置づける事業

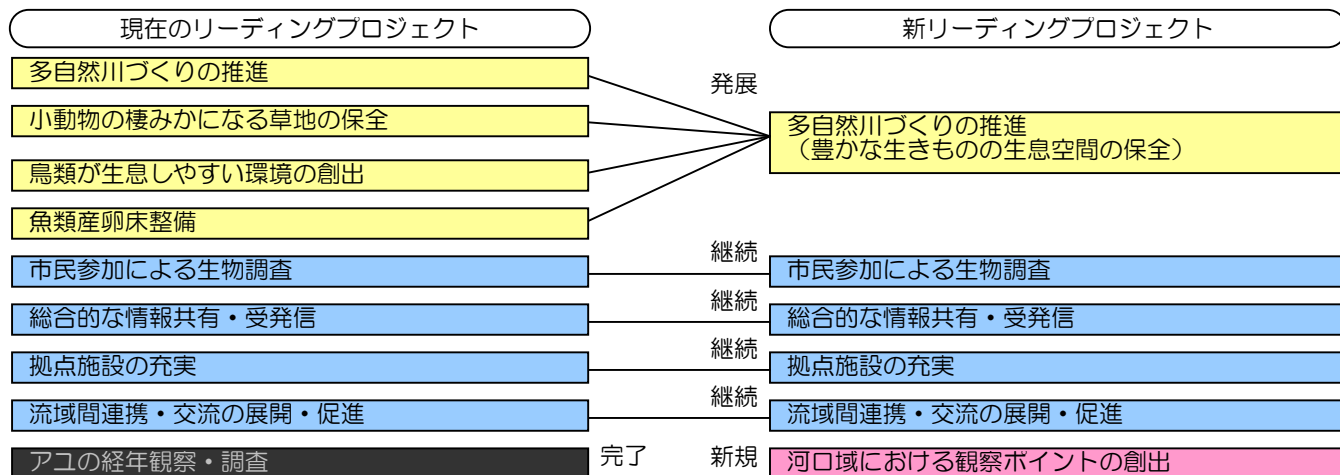
◎みんなで行こう多摩川プロジェクト



見直しの方向性

- 2008（平成20）年度に多摩川サイン計画を策定したことから、「総合的なサイン計画の検討・展開」はリーディングプロジェクトから外し、今後は「川への案内・川からの案内の整備」として、アクセスの向上を図ります。
- 誰もが行きたくなる魅力的な多摩川を目指し、「桜並木などの復活」「簡易水洗トイレの計画的整備」「駐車施設の充実」「運動施設の利用環境の向上」「施設の再配置・再整備」に引き続き努めるとともに、バーベキュー問題も含めた「利用ルール」づくりに市民の皆様とともに引き続き取り組みます。
- 占用地間に存在する未占用地の有効活用を含めた河川敷の新たな活用方策を検討し、多摩川の魅力をさらに引き出していきます。
- 県サイクリングコースの移管を進めるとともに、新たに整備された堤防用地を活用したコースの延伸等を検討し、市街地と一体となった身近な多摩川を創出します。
- 幸区船着場周辺の整備は、多摩川見晴らし公園の整備完了によりリーディングプロジェクトから外し、今後は「河川空間の新たな利用促進」のひとつとして活用を検討していきます。

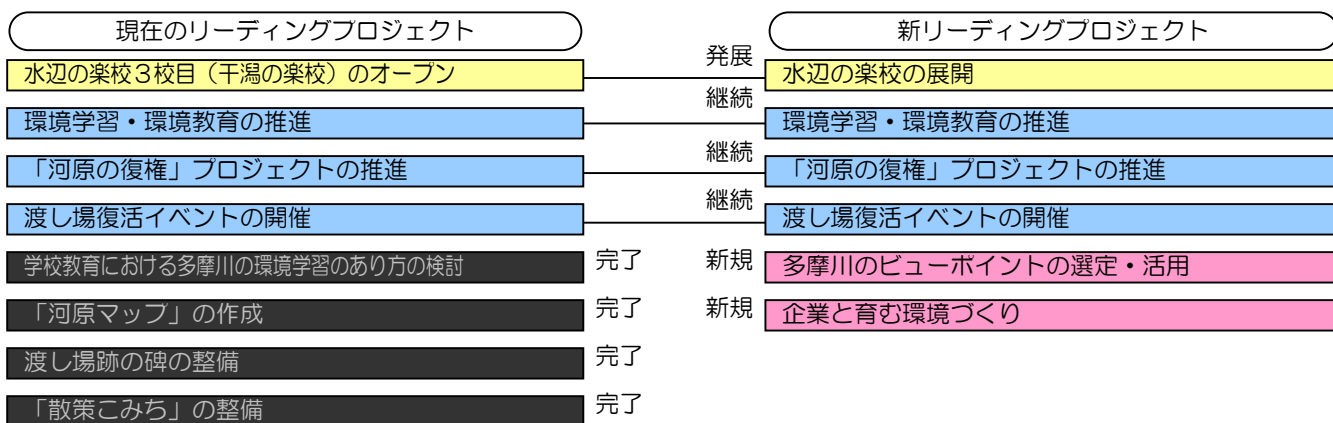
いのち
◎生命の再生プロジェクト



見直しの方向性

- 「小動物の棲みかになる草地の保全」「鳥類が生息しやすい環境の創出」は、生物調査や環境学習により地域特性を理解したうえで包括的に検討する必要があることから、「豊かな生きものの生息空間の保全（多自然川づくりの推進）」として総合的に実施することとします。また、「魚類産卵床整備」についても、「豊かな生きものの生息空間の保全（多自然川づくりの推進）」として捉えなおし、整理していきます。
- 「市民参加による生物調査」「総合的な情報共有・受発信」「拠点施設の充実」「流域間連携・交流の展開・促進」など、多摩川の持つ様々な自然環境を知ってもらう作業は継続的に行っていく必要があることから、引き続き行っていきます。
- 「アユの経年観察・調査」については、市民参加による生物調査や観察会を実施し、一定の成果を得たことから、リーディングプロジェクトからは外します。
- 多摩川の持つ特色としての干潟について理解を深め、保全につなげていくため、「河口域における観察ポイントの創出」を新たにリーディングプロジェクトとして位置づけます。

◎川崎っ子プロジェクト



見直しの方向性

- 市内3校の水辺の楽校がそれぞれの地域特性を活かした体験型学習を推進するとともに、連携を強化することで、多摩川が持つ多面的な特性についての理解を深めていきます。（「水辺の楽校の展開」）
- 「環境学習・環境教育の推進」「河原の復権」プロジェクトの推進「渡し場復活イベントの開催」は引き続き進めていきます。
- 「多摩川のビューポイントの選定・活用」を行うことで、改めて多摩川の魅力を再発見してもらうとともに、その素晴らしさを広く伝えていきます。
- 市内の企業との連携を強化することにより、企業の持つ様々なノウハウや特性を活かしてもらうことで、多摩川の持つ魅力発信に繋がるよう働きかけていきます。
- 「渡し場跡の碑の整備」「河原マップの作成」については、ほぼ目標を達成したため、リーディングプロジェクトとしては項目から外しますが、マップについては定期的に見直しを図っていきます。
- 散策こみちについても、市民の手による散策コースの設定やそれに基づくまちあるきが実施されていることからリーディングプロジェクトからは外しますが、マップの見直し等に反映させていきます。



多摩川 は 今
川崎市多摩川プラン事業実施報告書
2009-2010

発 行： 2011(平成23)年3月
川崎市多摩川プラン推進会議

事 務 局：川崎市建設緑政局緑政部多摩川施策推進課
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
電 話：044(200)2265
ファクシミリ：044(200)7703
E-mail：53tamasu@city.kawasaki.jp

